
家に帰るとチャイナが必ず！《銀魂・沖神》

朝露詩奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家に帰るとチャイナが必ず！《銀魂・沖神》

【Nコード】

N3060T

【作者名】

朝露詩奈

【あらすじ】

沖田には一つの悩みがある。

それは家に帰ると、妻の神楽が必ず妙な行動をとっている事。果たしてその妙な行動とは？そしてその理由は？

沖田目線、日記風のラブコメもどき。

事件（前書き）

何となく、思いつきで書きました。
いろいろパクっていますが、よろしく願います。

注意！

沖神CP。

駄文、しかもパクリ。

以上が大丈夫な方どうぞ。

事件

夜。

俺は疲れた体を引きずって、ザキに買わせた（ていうかパシらせた）あんパンを食べつつ、今日も家路につく。

今日は攘夷浪士を3人も捕まえた。なかなか真面目に働いてきたと思う。

それで、だ。

今日はゆつくりと家で休もうと思う…のだが、問題が一つある。

厄介な、俺の妻の事だ…。

深呼吸をして心を落ち着けてから、俺は家のドアを開けた。

「ただいま」

返事はない。

そのかわり、玄関のそばには包丁が背中突き刺さった状態で倒れている妻。床は血まみれ。

オレンジ色の髪は血でべっとりと固まり、真っ白な肌もいまは血で真っ赤だ。

…知らない人が見たら、気絶する光景だろう。

でも、これが我が家の恒例行事だ。

毎晩毎晩、家に帰ると、神楽は死んだふりをしている。

ある時は迷彩服を着て銃を抱え、名誉の戦死をとげていた。またある時はジャスタウェイの気ぐるみを着て倒れていた（この時は、さすがにドアを閉めようかと思った）。

ともかく、笑われるかもしれないが、これは俺の切実な悩みだ。土方死ねあの野郎とか、土方ウザってーなとか、とつとと副長の座から降りろよな土方とか、そんなのとは比べ物にならない、真剣な悩み。

「いいかげんにしやがれ。掃除が大変だろイ」

俺はそう言ってやったが、神楽は依然として死んだふりを続けている。

「オイ」

神楽が微動だにしないので、俺は脇腹を蹴ってやった。するとようやく、俺のバカ妻は起き上がる。

「お帰り」

そう言う神楽は、どこかやつれて見えた。

…やつれて見えるのも、当り前だよな。毎日毎日、飽きもしねーでネタを練ってるんだから。きつと脳をフル稼働させているんだろう。ま、それで疲れてやつれても、自業自得って奴だ。

「さっさと夕飯作ってくれよ。俺ア腹減ってんでさア」

そう言つと、神楽は

「はいアル」

と素直に返事をして、洗濯場の方へ行つた。きつと、血（っていうか赤いインク）で汚れてしまった服を洗うためだろう。

俺はソファに腰掛け、新聞を開いた。

…それにしても。

何のために死んだふりなどするのか。

昔付き合つてた頃は、こんなことなかった。もともと変だったとはいえ、ここまで変な奴じゃなかった。

死体プレイでもするつもりだろうか。

てか、死体プレイとか知らねーし。

とにかく、仕事でただでさえ疲れてるのに、さらに俺を精神的に疲れさせるのはやめてほしい…。

そして。

洗濯場から戻り、キッチンに立った神楽を見て、俺は啞然とした。

何と神楽は、頭に矢が刺さった状態で料理をしているのだ。

懲りない奴。

もう我慢できねえ。

「いい加減にしゃがれエエエエエ!!!!!!!!!!!!!!」

俺が怒鳴ると、神楽は一瞬その青い綺麗な目を大きく大きく見開いて——それから、「まいったな……」というように笑ってみせた。

「分かったアル」

∴その日の夕飯は、全体的に黒こげだった。

謎解き

それから夜、布団に入ってから、俺はなかなか寝付けなかった。隣から、小さく泣き声が聞こえてくるからだ。細い背中では、小刻みに震えている。

「…神楽？」

そう、呼びかけてみた。

返事は無く、ただ嗚咽だけが聞こえてきた。

翌日。

俺は、少し心を浮き立たせながら家のドアを開けた。

神楽は、死んだふりをしていなかった。悲しげに背を丸め、何も言わず、ソファに座っている。

「おい。帰ったぜイ」

そう言ってやると、神楽は花が咲いたような満面の笑みを浮かべた。

左胸に、赤インクで血の跡を作り、瀕死の状態を装っている俺を見て。

分かったんでさア、神楽。

アンタが死んだふりをする理由。

ただの恋人同士だった頃は、たまにしか会えなかった…けれど、それだけで楽しかった。

夜通し車ぶつとばして海を見に行ったり、一緒に土方いじめたり、一緒に土方いたぶったり、一緒に土方からかったりして。

でも結婚すると一緒に住むから、もうお前は旦那や眼鏡と一緒にいるわけにはいなくて…そして、いつでも1人で俺の帰りを待っている。

寂しいだろうな、すごく。

そして一日中待つて待つて待ち続けて、ようやく会えた俺は仕事で疲れて仏頂面をしてる。お前が話しかけても生返事。

だから…あの頃、恋人同士だった2人に戻りたくて、俺をただ笑わせたくて、死んだふりなんかしやる。

馬鹿な奴でさア、お前は。

何で、他の方法を考えられなかったのかねイ…。

本当に馬鹿でさア。

あまりに馬鹿馬鹿しすぎて、…馬鹿を通り越して、可愛いくらいに。

「神楽、こっち来なせエ」

そう言くと、神楽は俺に飛び付いてきた。

こんなことは久しぶりだ。

俺は神楽の腰に片手を回し、もう片手をそのあごにかけて――。

死んだふりをしている神楽を見て、俺は笑う。

それが俺たち2人の愛の形なのだとしたら…それはそれで、いいのではないだろうか。

謎解き（後書き）

はい。

超特急で終わらせました。

できれば、感想くださいー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3060t/>

家に帰るとチャイナが必ず！《銀魂・沖神》

2011年5月16日17時38分発行